

薬史学会通信

No. 14 1992年2月

●113

東京都文京区本郷7-2-2
（財）学会誌刊行センター内
日本薬史学会事務局

日本薬史学会総会ご案内

日 時 : 1992 (平成4)年4月18日 (土) 13:30

場 所 : 東京大学薬学部 3F 講堂 (文京区本郷7-3-1)

次 第 : 13:30 ~ 14:00 : 総会

14:00 ~ 16:00 : 公開講演

「ヨーロッパ医薬史跡散歩—日本とゆかりのある史跡を中心に」

公立新見女子短期大学教授・日本医史学会評議員
前オランダ・ライデン大学客員教授

医学博士 石田 純 郎 氏

16:30 ~ : 懇親会, 医学部図書館地下食堂 (有料)

なお、当日正午より評議員会を開催の予定です (別途連絡)。

◇石田純郎先生のプロフィール◇

日本薬史学会々員でもある石田先生は岡山市在住、小児神経科領域も専攻しておられ、『江戸のオランダ医』(三省堂選書, 1988), 『蘭学の背景』(思文閣出版, 1988), さらに『18, 19世紀のヨーロッパ社会の構造と医療』実学史研究VI (思文閣出版, 1990)のほか日本医事新報などにも連載記事を出しておられる方である。

1990年5月より昨年8月までオランダのライデン大学に在籍して医史学の研究に専念された。日本における従来の蘭学研究は、国内にある資料だけに依っていたことに着目さ

れ、広くヨーロッパ全域の医療・医学教育がどうであったかを探り、その関連で日本の医学の近代化を検討されてきた。そして日本の医学が、ヨーロッパの大学に基源を持つ医学ではなく、ウトレヒト陸軍々医学校に由来する軍陣医学が主流になっていたことをつきとめられ、今日、医の倫理を改めて問ねばならぬ日本の医学・医療の問題を解く鍵をお示しになった。

先生はヨーロッパ留学滞在中3カ月にわたり、14カ国、60都市、180史跡に及ぶ各地の医学史蹟を訪ねられ見聞を深められた。今回の総会公開講演はその一端を、スライドを交えて伺える筈で、大いに期待される所である。

第1回 ヨーロッパ医薬史跡を訪ねる旅

前号でも予告しましたイギリス・フランスを中心とする「薬史の旅」は、下記のようなスケジュールにまとめられつつあります。

年齢・職業を問わず、多数ご参加下さい。

記

出 発 1992年5月23日(土) 13:30 成田発

18:05 ロンドン着

ロンドン滞在 24日(日)～27日(火)

主な見学場所 : ウェルカム医史博物館
大英博物館, キュー植物園
イギリス薬学会博物館

移 動 27日(火) ロンドン発・パリ着

パリ滞在 27日(火)～30日(土)

主な見学場所 : パスツール研究所, 植物園
薬史学博物館, 市民病院
ルーブル博物館

帰 途 5月30日(土) 午前 パリ発

5月31日(日) 午後 成田着

参加費 398,000円(参加者20名以上で成立)

旅行主催 (株)スペース

(問合せ先) 〒102 東京都千代田区九段北3-2-4

電話 03-3263-7661 担当: 深沢, 吉田, 鈴木

海外の薬史学紹介(3)

世界の薬局の記号と掲示板

—アメリカ薬史学研究所誌より—

1989年4月, アメリカ薬史学研究所年次総会(ワシントン特別市)で, アメリカ薬剤師協会G. Griffenhagen 国際部長は表題のよう

な研究を報告され, その詳細が "Pharmacy in History, 32, 1, 12-21 (1990)" に掲載されているので本紙に紹介する。

報告によれば, フランス(15), ポーランド(16), ドイツ・デンマーク(17) (何れも世紀)などで人々に目立つ標識が掲示された由。

論文には, 赤十字マーク制定との関連も含

めて解説されている。但し日本については触れられていない。(Y)

ノールウエー



1913

ドイツ



1929



1951

フランス



1942

オーストリア



1950 (1986 修正)

トルコ



1956

スイス



1963

デンマーク



1969



1989

オランダ



1969



1989

イタリア



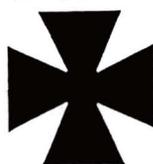
1970

スウェーデン



1971

スペイン



1972

カナダ・ケベック州



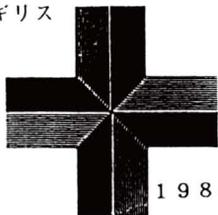
1972

フィンランド



1978

イギリス



1984

アメリカ



1931

日本薬学会第112年会

薬史学部会

3月30日(月)

福岡サンパレスパレスルーム

9:00～10:00

- 日本薬局方(JP)に見られた塩酸コカインの規格・試験法の変遷
東日本学園大・歯 松本 仁人, 薬史学会
○山田 光男
- インスリンおよびその製剤に関する薬局方の史的考察 (その3) 魚類のインスリンについて
薬史学会 ○末広 雅也
- 第二次大戦後の日・米薬局方の変遷—製剤総則, 各条製剤を中心に—
薬史学会 ○金庭 延慶, 昭和大・歯病・薬剤 鷲見 正宏
- 薬事法と薬剤師法の項目別の新旧比較について
薬史学会 ○末松 正雄

10:00～11:00

- 近代日本医薬品産業の発展 その7 昭和初期における医薬品産業の状況と製薬企業
薬史学会 ○山田 久雄, 山田 光男
- 大正・後期における中国産生薬大黃の輸入に関する変遷について
近大・薬 ○播磨 章一, 田中 康雄
- シーボルトの散瞳点眼液
薬史学会 ○宮崎 正夫
- 薬の携帯とその容器の史的・研究的(7)密封包装の技術
藤沢薬工 ○服部 昭

11:00～12:00

- 札幌薬学校(明治38年設立)について
北海道薬大 ○吉沢 逸雄
- 岡山薬剤師会の創設と明治時代における沿革史
薬史学会 ○小山 鷹二

- 星一と野口英世の交友
星薬大 ○三澤 美和
- 医学教育への薬学の協力(2)
奈良佐保短大 ○中室 嘉祐

1:00～1:45

- 『豊後国之内熊本領産物帳』所載の薬物の研究
熊本工大 ○浜田 善利
- 日・英薬学史に見る実学的研究
薬史学会 ○川瀬 清
- クリニカル・ファーマシーの歴史と思想 第5報
阪大・医・環境医学 ○辰野 美紀

シンポジウム

—近世における筑前の医薬事情—

2:30～3:10

「貝原益軒の博物学研究について」
福岡大・人文 井上 忠

3:10～3:50

「先端医療への闘い—種痘の始祖, 緒方春朔」
甘木朝倉医師会 富田 英壽

3:50～4:30

「筑前福岡藩政下の須恵目薬と須恵焼」
須恵町立歴史民俗資料館 高山慶太郎

編集後記

2年後の平成6(1994)年は、本学会創立40周年に当たります。その年に向けて幾つかの事業が企画されており、4月の公開講演、ヨーロッパ薬史の旅もその一環となるわけです。

お詫びとお願い

薬史学雑誌第26巻第2号掲載会員名簿の校正ミスに対し、編集部として深くお詫び致します。お気づきの点は文書で事務局あてお知らせ下さい。